

オリエンテーション

黄色の皆さんの桐朋での生活も残すところ1年を切りました。すでに「高3ゼロ学期宣言」を経ている皆さんではありますが、桐朋での最上級生に進級したということは、卒業後の進路決定に向けていよいよ、自分たちの出番が廻って来たことを意味します。**誰も次の居場所はまだ決まっています。**1年後のことを考えると不安でいっぱいなのも当然です。先輩方の皆が通ってきた道、誰もが一度は通る道とはいえ、いよいよ自分の番になると正直「ついに来てしまったか」という感じでしょうか。「来年の今頃はどうしているのだろう」、こういった不安を感じるのは当然です。もう一つ、その不安感の原因には、**絶対的な「合格への道筋」や「具体的に今何をしたらよいか」が見えてない状況**、というのもあることでしょう。

「具体的に、今から、何をしたらよいか」は一人一人違うわけですから、自分にあったメニューを作り、それに沿って進めていくことになります。そのメニューが本当にこれでよいのか、何回も自問自答しながら進めていくことは大事なことです。**一人一人メニューが違うのが当たり前**、このことを前提にしつつ、**多くの人に共通するであろうこと**を中心に基本情報や心構えをまとめてみたのが、今回の『さくら』です。高3では『さくら』が大量に発行されますが、本号の主旨はそこにあります。

I 共通の心構えとしておきたいこと

これから皆さんが考える進路は人それぞれですが、どの道をとるにしても**進路は自分で決めるもの、自分で切り拓くもの**ということは共通しています。もしかしたら、桐朋女子中学校を選んだのは保護者の方だったという人もいるかもしれません。小学生ならそのような選択もあったでしょうが、高校3年生になった皆さんは保護者の意見を待っているのではなく、自分の人生は自分で道をつけていくということを今まで以上に意識してください。誤解のないように付け加えますが、保護者の方の話を無視してよいと言っているわけではありません。保護者の方も担任も学年の先生も、これから進路の道を歩いていこうというみなさんをバックアップしようという気持ちに溢れています。そのアドバイスには充分耳を傾けつつ、**最終的な決断は、自分の人生なのだから自分の責任においてするもの**です。

もう1点共通していることは、**進路の直接の窓口は担任**であるということです。考えていることは、まず、担任に話してみてください。担任の先生で判断がつかないような場合は資料を持って別の先生に尋ねることになりますが、担任の先生は調査書、また時には推薦書を書くなど、この一年皆さんと一緒に歩いて行くわけです（卒業後も調査書の発行には担任が関わります）。担任の先生にきちんと自分の考えを伝え理解してもらうことは大切です。コミュニケーション能力を養いましょう。皆さんが判断し難いことなら、担任の先生も一緒に考え込むかもしれませんが、それはそれで意味があることです。担任は皆さんの伴走者なのです。

Ⅱ 希望する進路を実現するために

進路について、希望する方向はほぼ決まっていますか？

- (1) すでに何度も述べていますが進路の方向を定める際、何かをポイントにするわけですが、大きく2つに分かれると思います。①**目指す職業があるか**、②**勉強したい分野があるか**です。「看護師になりたい」のように職業面で定めていく場合もあり、「経営を学びたい」のように勉強したい方向性を分野で定めていくこともあります。どちらでもよいと思いますが、高校卒業後の学校というのはかなり専門的に分かれてくるので、やり直しが難しくなります。この方面に進んだらこういう道が可能性としてある、という程度は意識しておく必要があります。
- (2) 方向が決まったら、次はそれを実現させるための道です。1. **四年制大学・短期大学進学**、2. **専門学校進学**、3. **就職**（バレエ団など）、4. **海外の学校**（海外大学など）へ進む、5. **その他**（自衛隊など）、がこれまでの先輩方が進んでいった主な道です。もちろん、複数の道を見据えて動く場合もあるでしょうが、第一希望はどの方向かを決めましょう。
- (3) 第一希望の方向が決まったら今度はそれに向けた準備です。5の場合は様々でしょうからちょっと例外にするとして、1. 2. 3. 4. の場合はどれも①**学力を伸ばす**という準備と②**学校や会社を探す**という2つの準備が必要です。2つは並行して行わなければなりません。
- (4) ここから先は1~4で少しずつ異なってきます。

1. 四年制大学・短期大学への進学を希望する

(1) 学校を探す

目標とする学校を考えましょう。こう言われると「もう決めなくてはいけないの？」と焦るかもしれませんが、決めなくてはならないわけではありません。ただ、**大学入試はかなり多様化しており、早い時点から様々な形態の入試が始まっているのが現状**です。「こんな入試があったの？」と事後に気づいてもどうしようもありません。早めに調べ始めてみた方がいいと思います。調べるポイントは、①**入試の形態**も大切ですが、②**学校の中身**をお忘れなく。つついり入り口である入試にばかり目が行きがちですが、「入ってみたはいいけど何なの、ここは…」なんてことのないように。もう一点、可能な限り、オープンキャンパスなどで足を運びましょう。自分の母校、学歴に残る最後の学校になる学校を探しているのですから。

(2) 勉強を進める

受験勉強の目標は、大学合格です。そのためには、勉強をどう進めたらよいのでしょうか。

- ① いきなり大学入試の過去問をやっても、難しく感じるのは当たり前。山に例えるとそれは頂上にあたるものだからです。ですが、頂上がわからなければ計画も立ちません。早いうちに一度過去問を見てみてください。どれだけ難しいか、今の自分とどのくらい差があるのか、ショックを受けるでしょう。それで挫けて登る気力がなくなるのなら、それまでのこと。でも、登る前から挫けていていいのですか？

高い山を登るときのコツは次の3点です。

- (ア) 頂上までの行程を考える＝ロードマップを作る（今自分がどこにいるのかを判断しそれに基づいて全体の計画を立てる）

(i) 歩くちょっと先を見据える（短い単位での目標を立てる）

(ii) 歩くときは足元やそのそばを見る（今やっていることに集中する）

②『難しい問題が解けること』だけが『学力の充実』ではありません。応用力は基礎力の上に成り立つもの。考え方の基本をしっかり押さえること（これが本当の応用力につながる）と、基礎力の充実を忘れずに。基本的な問題で取りこぼさないことも大切です。

③そのためには、授業以外の、自分で勉強する時間をたくさんとること。力がつくのは授業を聞いているときではなく、自分で勉強しているときです。自分で勉強する時間をどれだけ持つかがポイントです。

(3) AO入試や推薦を考えるのか

最近は大学入試の形態が多様化している、という話は耳にしたことがあると思います。大別すると、(a)一般入試、(b)指定校推薦、(c)公募制推薦、(d)帰国枠入試、(e)AO入試・自己推薦入試の5つです。（注：(b)、(c)は学校長からの推薦を受けて臨む入試です。後述）

この中で、わりと早めに始まってしまうのが(e)AO入試・自己推薦入試です。出願受付開始日は8月1日以降です。AO・自己推薦入試を利用するのかどうかで、この一年の計画は大きく変わってきます。この入試の特長は、

①早めに合格が決まるので、合格すれば受験から開放される。

②学力以外の部分にも光をあててくれる（といっても最近では学力面の判定要素度合いが見直され、従前より重点が置かれている大学も）ので、アピールできる実績を持っている人にとっては考えられる選択肢かもしれない。

③一方で（同じことを考える人は多く）倍率は高い。簡単には受からない。

④要求される書類が膨大なので、出願するための準備にとっても時間と労力がかかる。つまり、その間は勉強時間がとられてしまう（例えば、AO入試の草分け的存在の慶応の総合政策・環境情報では、A4の用紙裏表9枚以上の資料作りをしなければなりません。しかもその中には「3年前と現在のあなたを比較してその間の『知的成長』の跡を辿りその内容を記してください」のような答えにくい質問も少なくありません）。

希望する大学がAO入試を行っているとして、それを使うかどうかは①②と③④のメリットとデメリットをどう考えるか、にかかっています。各大学が求める学生像（アドミッションポリシーといいます）に対して、自分はどのタイプの入試で臨んだら魅力が伝わるかを考えましょう。更に、AO入試の中には「合格後は入学を確約するもの」（**専願**）と「そうでないもの」（**併願可**）があります。そういったこともよく考えて、利用するかどうか決断することになります（細かいルールについては、7月に再度説明します。たいへん重要です！）。

利用することにした場合は、そのことも踏まえた上での勉強を進めなければなりません。AO入試のための準備には、たいへん時間と労力がかかることを念頭においてください。

(b)指定校推薦や(c)公募制推薦の動きは9月から始まります。これについては後で少し詳しく説明します。

2. 専門学校・各種学校への進学を希望する

大学や短大に比べ、社会に出てすぐに役立つ実用的な部分に力点が置かれる専門学校・各種学校に魅力を感じる人もいます（専門学校と各種学校の違いは学校として認可されているかどうかで、各種学校は塾と同じ扱いです）。こちらは、大学以上に学校調査を十分にする必要があります。中には営利目的で教育は二の次、というところもあるようです。そんなところに引っかかったら、卒業してもどこにも就職できません。

入試形態も大学同様に多様化していますが、推薦入試、自己推薦入試、一般入試の3種に大別されます。

3. 海外の学校への進学を希望する

いずれは海外で学びたいと考えている人は、決して少なくないと思います。考えてほしいのは、高校を卒業してすぐに海外に行くのがよいのか、大学在学中に行くのがよいのか大学を卒業してから行くのがよいのか、という点です。外国語で授業を受け、それを理解し、レポートも書かなければならない。その中で自分を磨くにはそれ相当の語学力も必要だし、タフな精神力も必要です。「なぜ海外なのか」「どうして今なのか」という問いにきちんと説得力ある説明ができますか？

海外の学校については、残念ながら学校には多くの資料がそろっていません。過去の先輩が斡旋業者（エージェントというそうです）を通さずに独力でトライしたケースについて聞いたところ、SAT（学力テスト）やTOEFL（英語を母国語としない人向けの英語のテスト）の準備、多くの場合に課せられる essay の準備などに時間がかかるし、何よりも学校探しとその学校について調べることに苦労したようです。

なお、海外進学に関しては進路指導室でも情報集めを心がけていますが、国際教育センターの主任の熊野先生が詳しく御存知です。また、外国語科の何人かの先生も今までに海外進学に関わった経験があるそうです。海外の学校の様子などは主にAブロックにいる外国人講師の先生に思い切って尋ねてみるのも一手かもしれません。

また、進路指導部でも、ベネッセ海外進学サポートセンターに依頼して、日本の国際系大学や海外進学を希望する人のための説明会を毎年開いています。今年度も6月に実施の予定ですので、ぜひ参加してみてください。

4. 就職を考える

就職にも、つてを頼って就職する縁故採用と、ハローワークに届く求人票を見て応募する採用の2種類があります。先々のことを考えたとき、求人票を見て応募するルートをお勧めします。なお、就職にも内定に至るまでの手順がありますが、それは希望する人に説明することにします。希望者は申し出てください。

また、公務員試験を受験したい（警察官・消防官なども）と考えている人も、早めに教えてください。

Ⅲ 入試制度について

黄色の入試年度は<2019年度・平成31年度入試>です。2018年度入試と書いてある資料は、緑の先輩の受けた前年度のものです。資料を調べるときは何年度のものを見ているのかに注意して下さい。四年前から数学・理科が、全面的に現行教育課程の入試に切り替わりましたので、試験科目など特によく確認して下さい。兄貴や姉貴の時とは違う場合があります。

1. センター試験

国公立大や私大のセンター利用試験を考える場合は受験しなければなりません。黄色のセンター試験日程は1月19、20日の土日です(紫より一週間遅い)。桐朋の場合、1月以降の入試を受ける人の大半が出願・受験しています(緑の学年では約230名出願し、約180名が受験しました)。今年は前年度並みの平均点で落ち着いた展開でしたが(時々行われる得点調整はありませんでした)、一部に三年後の「大学入学共通テスト」を意識したような問題も出題されました。志願者に占める現役生の割合は81.3%で現役生が中心の試験でした。なお、受験には隔年現象ということもあります。来年はどうなるでしょうか？

さて、受験生は10月のセンター試験出願時に自分の受験科目を登録することになります(事前登録制)。現教育課程の入試の理科には、理科①(基礎科目)・理科②(発展科目)を含んだ4つのパターンが用意され(これは大学・学部ごとに指定があります)、この中から1つを選んで受験することになります。理科を受験する人は、文系学部を中心に受験のヴァリエーションが増え、詳細な確認が必要です。

- すべての出題教科5教科に対して必要な科目をそれぞれ登録する。
- 「地歴・公民」は受験科目数を登録する。
- 「理科」は4つの受験パターンから一つ選択して登録する。

☆上記の登録内容は、出願後に届く『確認はがき』到着後の一定期間に手続きを行えば、変更可能。その後は変更不可。要注意です！

2. 国公立大学の入試

受験科目が多いからと敬遠する人もいますが、だから難しいとかいうものではありません。桐朋生にはもっと挑戦してほしいです！①前期日程試験、②中期日程試験、③後期日程試験、④公募制推薦、⑤AO入試、⑥帰国枠入試の6つがありますが、全ての国公立大学が6種類を用意しているわけではありません。

① 前期日程試験

センター試験+個別学力検査(2月25日～)

多くの国公立大学が、前期日程試験に定員の多数を振り分けています。国公立大進学を目指す場合は、まずこの前期日程試験での合格を目指します。

② 中期日程試験

センター試験+個別学力検査(3月8日～)

これは、一部公立大学のみが実施している試験です。

③ 後期日程試験

センター試験＋個別学力検査（3月12日～）

国公立大学は複数の入試を行うことが義務づけられている（はずな）ので、前期と後期の2回試験を行うところが多かったのですが、最近の流れとして後期日程試験の廃止が続いています（その代わり推薦入試枠が増加）。受験校選びの際にしっかり確認しましょう。

なお、よく尋ねられる点について以下にまとめておきます。

「国公立大学は前期から1校、後期から1校しか受験できない」

「前期と後期で違う大学を受験してもよい」

「同じ大学でも前期と後期で入試科目は違う」

「前期と後期両方合格して、2校から進学先を選ぶことはできない、つまり前期で合格して手続きをすると、後期は合格対象者からはずされる」

「大学学部によっては、2段階選抜（通称足切り）がある。出願しても、センター試験の持ち点が少なければ、2次試験を受験する前に不合格になってしまう」

※傾斜配点

①～③の試験の合否判定は、センター試験と個別学力検査（いわゆる二次試験）の総合点です。ただし、試験の点数をそのまま単純に足すのではなく、大学がそれぞれ割り算したり掛け算したりして換算して合計する場合があります。つまり、自分の得意科目のウェイトが高い大学は「有利」になります。この点も、学校選びの際、視野に入れるポイントの一つになるでしょう。

※センター試験の変更に伴う国公立大入試の指定科目の変更

2015年度より現行の教育課程入試となり、各大学の受験必要科目が大きく変更されました。ほとんどの国公立大学は新たに変更があればその内容を発表しています。確認してください。

④ 公募制推薦入試

高校での実績などを見て優秀な生徒がいれば高校で責任をもって推薦してほしい（学校長の推薦）と全国の高校に呼びかけるものが、公募制推薦と呼ばれるものです。**国立大学は指定校推薦（後述します）ができないので、推薦はこの公募制推薦のみです**。公募制推薦には2種類あり、(1)“小論文”と称される試験＋面接というタイプと(2)センター試験を受験し、その後面接などの試験が課せられるタイプです。この公募制推薦は桐朋への依頼が来るわけではないので、自分で探してくるようになります。また、志願者が全国から集まるので、高倍率になることが多いです。一昨夏、国大協より国立大学は2018年までに募集人数の30パーセントを推薦で採る、という方針が出されました。三年前より東大でも推薦入試が始まり、話題になったのはご存知でよね。他大学も追随して枠を広げていっています。例えば、一橋大学でも商学部だけだった推薦入試を(桐朋からも現役合格が出ています！)一昨年度から全学部で導入しています。**国公立大でもチャンスが一回、増えることになります**。

公募制推薦には様々なルールがあります。ほとんどが専願（合格したら必ず進学する）であること、学校から応募できる人数に制限のある場合もあること、応募は一回には限らないが受けた推薦試験の結果が出る前に次の推薦試験に応募することはできないことなどです。

7月に再度説明します。

⑤ AO入試

大学によってはAC入試など他の名称で呼んでいる場合もありますが、大きくAO入試とくくってよいと思います。大学の特色も出せることから、近年、国立大でもこの方式を取り入れる大学が増えてきています。京都大学の特色入試（三年前、青の卒業生が合格しています！）もその一例です。どのようなものかは、次の私大の方で書きます。

⑥ 帰国枠入試

文字通り、海外からの帰国生のために門戸を開く入試です。日本の高校の学習内容を問うのではない、英語やフランス語の試験や小論文、面接などが中心です。大学によって資格（帰国後〇年以内、海外の学校在籍期間〇年以上）が異なります。中には海外の高校を卒業した場合のみ、としているケースもありますが、可能性がありそうな場合は調べてみてください。

3. 私立大学の入試

①一般入試、②センター利用入試、③指定校推薦④公募制推薦、⑤自己推薦入試・AO入試、⑥帰国枠入試、⑦その他の入試の7つがあります。

① 一般入試

各大学で作成する、いわゆる一般的な学力試験です。とは言うものの、科目や配点の異なる試験が何種類も用意されることがあり、試験日も複数設定されることがあります。したがって、同一大学同一学部から複数の合格をもらうこともあります。

② センター利用入試

センター試験の結果のみで（多くの場合はその大学オリジナルの試験を受験せずに）合格を決める試験です。つまりセンター試験でよい結果を残せば、それだけで合格通知がもらえます（短大でもセンター利用試験は行われています）。東京のほとんどの私大で行われていますが、こちらに割り振られる定員は少なく、そのため合格点（合格得点率）は非常に高いのが現実です（80%以上はザラで、中には90%を超える場合もあります）。とはいうものの、センター試験である程度の点数を取っておくと、例えば①の一般入試が振るわなかった時、3月のセンター利用入試への出願で道が開けたケースもあります。また安全圏の大学を早めに実施されるセンター利用入試で抑えておくという方法もよく見られます。更に、この1、2年の傾向としてMARCHクラスでもセンター利用入試での合格が増えていきます。しっかりと基本を抑えてセンター対策をすることで、一般入試でないもうひとつの道が開かれます。

なお、①と②を併願することは可能です。両方から合格通知をもらうこともあります。

③ 指定校推薦入試

国公立大にはない、私大特有の推薦入試です。緑の学年には130余りの大学から600枠以上の指定校推薦の依頼が来ました。短大も17校から来ました。指定校推薦入試とは、桐朋を指定して「桐朋で〇名まで責任をもって推薦してほしい」と大学が依頼してくるもので、言わば桐朋との信頼関係に基づくものです。ただし基準があるのでその基準を満たさなければ推薦されません。また、学校が責任をもって推薦するので、たとえ希望者が一人であってもその人を学校として推薦できるかどうか、推薦会議を開いて検討します。指定校推薦入試では、

推薦されればそのまま合格する可能性が高いですが、稀に不合格となることもありますので、安心はできません。入学後も追跡調査され、その後の桐朋への依頼に係わってきます。もちろん専願に限り、応募は一人一回に限ります。他の推薦入試との併願もできません。また併願可のAO入試であっても、指定校推薦に応募する以前に試験を受けることはダメです。ちなみに昨年度は40名強が合格しています。

なお、昨年緑の学年に届いた推薦依頼大学一覧を欲しい人は進路指導室に取りに来てください。ただ、同じように今年度も依頼が来るというわけではありません。大学の都合や高校からの合格者数、指定校推薦で入学した生徒の入学後の様子などで、毎年変わっています。更に、桐朋から推薦できる人数にも上限があるので、この表を見て自分は有資格者だと早合点しないでください。指定校推薦については、より詳しいことを再度7月に説明します。

④ 公募制推薦入試

性格的なものは国公立大の場合と同じですが、試験の形式は国公立大のような制限はありません。建前は「小論文や面接」ですが、実際には記述式の試験や一部（掟破りの）マーク式の試験まで(!)実施されています。

⑤ 自己推薦入試・AO入試

学校からの推薦は必要なく、大学が指定してくる活動実績（学習面に限らずクラブ活動など学校生活全般）を満たしていれば、(大学でも活動するエネルギーを持っているだろうから)学力面に限定することなく様々な面から判断して入学を決めようというのが、自己推薦入試です。大学が示す基準をクリアしていれば誰でも出願できます。大学が「このような生徒が欲しい」という“アドミッションポリシー”と呼ばれるものを公表していますので、それも参考にしてください。

AO入試は、自己推薦と似ていますが、どちらかというとも高校での活動実績も意識しつつ大学で勉強する資質があるかどうかを、時間をかけて多方面から充分に見極めようというものです(自己推薦とAO入試の線引きは、それほど明確ではありません)。AO入試という名称は、入試事務局を意味する Admissions Office からとったもので、ここ10数年の間に盛んになってきました。先程も書きましたが、自分で事前に用意する資料も膨大なものになることがあります。AO入試を意識するのなら、自分の実績で勝負になりそうかどうかを調べてみて下さい。勝負になりそうなら、いろいろな活動の記録を整理するところから始めてみるとよいと思います。紫の学年でもこの方式で進学を決めた人たちが結構います。ただし、本当に行きたい志望大学であれば一般入試以外のもうワンチャンス、と捉えてチャレンジして良いのですが、AO入試だけでとにかく合格しよう、と考えるのは危険です。念のため。

⑥ 帰国枠入試

国公立大と同様です。出願資格は各大学で異なるので、調べてみましょう。中には前の在籍校の成績が必要となることもあります。海外から取り寄せるのにかかり時間がかかってしまったというケースも過去にありますので早めに準備して下さい。

⑦その他、年内に行われる奨学生(給費生)入試もあります。授業料免除以外に、一般試験免除(つまり合格)をもらえたりします。その大学が志望大学のひとつであれば、この方式で受験しておくのもいいと思います。

4. 推薦入試やAO入試の併願

桐朋での『専願』、『併願可』の考え方について確認します。

『専願』とは合格すれば必ず進学することが義務づけられている入試制度のことを指す。
『併願可』とは合格しても進学することが義務づけられていない入試制度のことを指す。

また、同時出願に関しては、以下のルールがあります。

- ①専願の入試については、同時に重ねて受験することはできない。
- ②校長の推薦状を携えて臨む入試については、同時に重ねて受験することはできない。

これらの考え方のもと、次のように行っています。

- ①指定校推薦入試はすべて専願。しかも学校長の推薦状を携えて学校代表として受ける入試。その重みを考え、たとえ「併願可」の大学であっても他の入試と同時に併願することはできない。
- ②公募制推薦入試は、そのほとんどが指定校推薦同様、学校長の推薦状を携えて受ける入試。さらに、専願制のものと同様併願制のものがあるが、ほとんどが専願。専願のものについては他の専願の入試と同時に併願することはできない。また、併願可であっても校長推薦を必要とする場合は同時に併願することもできない。
- ③公募制推薦（併願可）とAO入試（専願）またはAO入試（併願可）など、同時にいくつも併願することは好ましいとは考えていない。その労力が無駄に終わる可能性が少なくないから。その時間をしっかり勉強し、来年1月以降の一般入試で勝負をかけるべきである。1年間じっくり勉強し受験を迎えるという経験は、今後の人生に有益であることは間違いない。

7月にこれらのルールにより詳しい説明会を行います。疑問点や不安な点のある人は個人的に確認しに来て下さい。是非早めに、そして確実に。自分勝手な判断は危険です。また塾などによっては大変甘い解釈をしている場合があります。混乱を招くケースもあります。相談することはとても大切です。

IV その他

高3の1年間を送るにあたり、気に留めておいて欲しいことをまとめました。

1. 学校行事や部活との両立

今更言うまでもありませんが、皆さんの人生が高校卒業・その先の進路決定で終わるわけではありません。それから更なる展開が待っています。学力だけが充実しているような人間ではなく、魅力ある、幅の広い人になって欲しい、このことは、桐朋女子高校の教職員全体からの願いです。桐朋は、高校3年を「次の学校への通過点」と考えているような学校ではありません。桐朋生活総まとめの学年だと考えています。部活や体育祭・文化祭など、今年もいろいろなことが待っているでしょうが、自ら進んで取り組んで、よい経験をしてほしいと思います。体育祭や文化祭の準備で忙しいとき、部活の練習でクタクタのとき、「勉強しなくちゃいけないのに…」と焦る気持ちも心の片隅に生まれるでしょう。そんな気持ちを抱

えたまま練習しても、心ここにあらず状態で実のあるものにはならないですよ。

大切なことは、「集中力」と「切り替え」です。勉強なら勉強、応援交歓の練習ならその練習、今やっていることに集中すること、そして終わったら次のことに気持ちを切り替え、また集中する。これに尽きると思います。

2. 評定平均値とは？

計算式は、下に示す式です。7月6日に高3では前期評定が出ます。そこから関係してくる数字です。基本的には以下の通り。

$$\frac{[\text{高1の評定の合計}] + [\text{高2の評定の合計}] + [\text{高3の評定の合計}]}{[\text{高1の履修科目数}] + [\text{高2の履修科目数}] + [\text{高3の履修科目数}]}$$

そして、算出された評定平均値を次のような5つの段階に分け、**学習成績概評**と呼ぶことがあります。

A……5.0～4.3

B……4.2～3.5

C……3.4～2.7

D……2.6～1.9

E……1.8～

3. オープンキャンパス

高1・高2のときに参加した人も多いと思いますが、3年生でも是非行ってみましょう。特に、**入試で面接がある場合は必ず行くこと**。オープンキャンパスに来たかどうか、質問されます(または願書に書かされる場合もあります)。行っていない場合は、厳しい質問が待っていることもあるようです。また、AO入試でオープンキャンパス参加が条件になっている大学や、その際に「エントリー」してこなければならない大学もあります(女子大に多い)。

オープンキャンパスに行く場合は、ここから入試が始まるんだ！くらいのつもりで参加すること。ただの見学会と思ってはいけません。予めHPなどで下調べし、質問することや見てくるポイントを決めて臨みましょう。『オープンキャンパスノート』を作ると良いとある研修会で聞いてきました。そこに感じたことやわかったことなどを、大学のパンフの言葉ではない、自分の言葉で書いておく。それが面接に活かされます。面接がない場合でも、過去問やパンフが無料でもらえたり、新しい入試情報が得られたりします。自分の母校となるかもしれない学校です。地方は無理かもしれませんが、東京近郊ならば是非スケジュールを調整して行ってください。今後に関わる情報は少しでも自分の目と耳と手足で集めておきたい！ そういませんか？

4. 模擬試験（実力テスト、外部テスト）

大学や短大を受験する場合、自分が志望者全体の中でどの位置にいるのか。また、今の自分の学力はどの程度なのかが気になると思います。入試とは、受験した集団の中での順位争いだからです。それを知るために、模擬試験をときどき受験してみましょう。学校を会場にして行なう模擬試験もいくつか予定しています。次の通りです。

6月 4日（月）	ベネッセ	総合学力マーク模試	【全員】
6月 9日（土）	ベネッセ	第1回小論文テスト	【希望者】
9月 11日（金）	ベネッセ	第1回総合学力マーク模試	【全員】
10月 3日（土）	ベネッセ	第2回小論文テスト	【希望者】
10月 21日（日）	河合塾	第3回全統マーク模試（ドッキング判定有）	【希望者】
10月 26日（金）	河合塾	第3回全統記述模試	【全員】
12月 2日（日）	河合塾	センター試験プレテスト	【希望者】
1月 7日（月）・8日（火）		センター試験本番直前模擬体験	【希望者】

いずれも、英・数・国・地歴公民・理科が受験できます（小論文テストを除く）。

その他、幾つかの外部模試は学校を通して申し込むと安くなります。**外部模試の申込み書**を高3の進路コーナー（2階廊下）に置きます。締切りに注意して申し込んで下さい。例えばセンター試験での理科基礎は60分で2科目を解答しなければならない形式とか、地歴公民や理科（発展）で2科目選択した人は130分間連続して部屋からは出られないとか、受け方にも慣れておくことは不可欠です。また、学校で行う模試のほかに、外部の模試を定期的に参加してみることもお勧めします。一方で、模試は一日中試験を受けるということはどういうことかという良い体験にもなる反面、デメリットとして「一日つぶれてしまう」という点があります。時間がとられてしまうことを考えると、「受けすぎには注意」も必要です。

5. 自習室について

平日のブランクの時間と放課後18:00まで、N211に高3専用の自習室を設けています。17:00までは図書館も併用して、自学自習の場としてください。使用上の細かい案内は別紙を参照のこと。自習室は、17:00以降については、毎月『<平常時>自習室下校延長 承諾書』を保護者の方のサインをもらって提出することで18:00まで使用可能です。延長する日は自習室備え付けの用紙に名前を記入し、下校時にはチェックして帰宅するという形をとっています。昨年度も多くの生徒が入試直前まで利用していました。よく利用する人たちの大学合格状況は大変良いものでした。わからないところがあればすぐに先生に聞くことができるメリットを十二分に利用し、着実に力をつけたと思います。

放課後の自学自習をサポートするスタディアドバイザーについて、今年度は今までの三年間の様子もふりかえって更に一工夫が必要と判断しました。体育祭明けの6月を目途に、新たな企画を考えています（改めてご案内します）。

6. 夏休み中の夏季受験対策講座

夏休み中、3期<7/23~29・7/30~8/4・8/20~26) にわたって、月曜日から土曜日まで受験補講を開講します。センター対策や記述試験、弱点補強など実戦的な内容の講座を主要教科で置きます。今年も内容や時期を改善し、専任以外の外部の講師も導入した本格的な講座を準備中です。一講座90分×3日(各期、月~水、木~土の2ゾーンあり)という日程で、一講座1000円で行います。5月連休明けには講座一覧を皆さんにお示しし、6月初旬には申し込みを受け付けたいと思います。予備校の夏期講習に行こうと考えている人もいますが、身近な学校に於いて破格の低コストでジックリと学ぶことができます。ぜひ多くの方が受講してくれることを望みます。夏休みは一つの「山」といえるでしょう。しっかりと計画を立てて力を伸ばして欲しいと思います。

7. 英語四技能の外部検定資格利用入学試験について

英検・TOEICなど検定資格がAOや推薦入試で必要となる場合が増えています。また、一般受験でも出願資格として必要だったり活用する大学もでてきました。また、TEAP入試が始まり、G-Tecなどと共に拡大の一途をたどっています。これも大学ごとに確認が必要ですが、受験してスコアをもっていれば、受験大学を具体的に考える時に、一つの選択肢が増えることとなります。ぜひ受験しておくといいでしょう。このトレンドは今後ますます広がるのが確実です。英語ではありませんが、漢字検定やニュース検定なども活用できることがあります。

8. 学校にある資料

(1)高3向けの進路コーナー

学校には、毎日進路関係の郵便物が数多く届きます。必要なものはみなさんの目に届くようにしていくつもりです。いろいろな説明会に関する案内も含まれていますので、頻りにチェックしてください。チェックすべき場所は4カ所です。

- ①昇降口前の進路掲示板
- ②職員室前のロッカーの上(『ご自由にお持ちください』コーナーあり)
- ③2階のEnglish Room手前の高3進路コーナー
- ④進路指導室内のカウンターの上等

(2)進路指導室

高3E教室の向かいの教室が進路指導室です。職員の道下由起さんがいらっしゃって、皆さんの調べ物の手助けや、進路に関わるさまざまな質問や相談にも応じてくださいます。

また進路指導室には以下のような様々な資料があり、一部貸し出しを行っています。開室時間帯は、原則として、月~金の8:30~16:30(水は~15:30、土は~13:00)です。

- ①赤本や青本(大学学部ごとに過去数年の入試問題と解答が載っている)
- ②科目ごとの大学入試問題正解
- ③大学・短大の入試要項、学校案内冊子等(青と赤のファイルに入っている)
- ④センター試験・大学や短大の過去問(入試センターや大学が提供するもの。黄色のバ

インダーや緑色のファイルに入っている)

⑤ 昨年の模試の問題 (一部)

⑥ 大学のシラバスや紹介ビデオ

⑦ 「蛍雪時代」をはじめ、予備校などがまとめた各種資料、職業紹介の本

⑧ 「小論文の書き方」などの書籍、面接試験の実際など先輩方からの資料

(進路指導室職員に尋ねてください)

⑨ 各大学のオープンキャンパス等の情報やチラシ

上記のものうち、赤本やシラバス、ビデオは**1泊2日**で貸し出しをします。ただし、期限を必ず守ってください。特に赤本を無断で進路指導室から持ち出すこと、厳禁です。また持ち出し禁止の本は、コピー機を設置しているので、このコピー機でコピーすることができますので(1枚10円)利用してください。なお、①の赤本の中には白・青の先輩から「紫のために」と寄贈されたものが何冊も含まれています。④にも、先輩が実際に受験した問題(またはコピー)がいくつか入っています。中には書き込みがそのままになっているものもありますが、ご容赦ください。

なお、今年度の大学案内も5月下旬以降、取り寄せたものを並べます。自由に持って行ってください。また、**毎月の学習成果一覧表**を置きます。日々の勉強に役立ててください。

③ 図書館にあるもの

中高の図書館にも進路関係の資料がいくつかあります。

① 科目ごとの「大学入試問題正解」

② センター試験の過去問(本になったもの)

③ 旺文社が発行している受験情報雑誌『蛍雪時代』やその臨時増刊号

9. ホームページ

チェックするといいいHPを紹介します。

① **河合塾 Kei-Net 大学入試情報サイト**

ここに各大学の変更点がまとまって出ています。**Benesse マナビジョン**と共にお勧めです。

② **河合塾 大学入試 センター試験・二次私大解答速報**

この春行われた入試問題を、(一部の有名大学に限定されますが)本物同様の形で手に入れることができます。センター試験の問題も手に入ります。

③ **駿台 大学入試情報 大学リンク集**

全国の大学のHPにつながっています。

④ **大学入試センター**

センター試験の情報が手に入ります。

⑤ **東京都専修学校各種学校協会**

東京都の専門学校が検索可能。冊子の無料配付の申込みもできます。

10. 最後に

これからの1年を考えると、先が見えない不安を感じている人も少なくないと思います。不安な気持ちを何とかしたいと思うのは人間の常かもしれませんが、こと進路に関しては安易に『妥協』してほしくありません。夢をつかむためにも、精一杯力を尽くして欲しいです。5教科勉強するより、3教科の試験の方が本当に楽なのか？ それで難関私立大学が突破できる力がつくのか？ 安易に受験科目を減らして自分の夢はかなうのか？ ケースバイケースとはいうものの、最後までしがみつき、あがいた人たちが力が確実に伸び、合格を勝ち取りました。弱気な考えはなくすことです。皆さんは現役生であり、最後まで伸びます。

高校3年生の生活は忙しいです。しかもあっという間に時間がたちます。「自立と両立」をモットーに、流されることなく自分のすべきことを見失わずに、何事にも強い気持ちで取り組んで欲しいと思います。

最後に一言。一年間を通じて、同じ学年の仲間が個々に進路を考え、挑戦し、結果をめぐって悲喜こもごもの日々が、特に後期以降あります。メンタル面でもフィジカル面でも一人一人がタフであってほしいのですが、同時に75期黄色の仲間として、互いに励ましあい、気を配りあい、支えあう気持ちを大事にして下さい。「受験は団体戦」、体育祭と同じような気持ちで臨めるといいですね。みなさんの健闘を祈り、応援します！

□ 緑の先輩の進路の状況（4月5日現在） □

在籍人数…………… 268名

4年制大学…………… 217名

短期大学…………… 2名

専門学校等…………… 6名

海外の学校…………… 1名

就職…………… 1名

浪人…………… 41名